

## 1. 2014年度の温室効果ガス排出実績

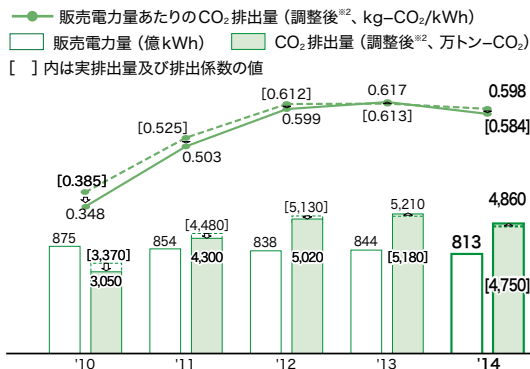
### CO<sub>2</sub>排出実績

東日本大震災の発生以降、原子力発電所の運転停止が継続し、代替する火力発電の発電量が大幅に増加していることから、震災前(2010年度)と比較するといずれも大幅に増加しています。

2014年度のCO<sub>2</sub>排出量は4,860万トン、販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量(CO<sub>2</sub>排出係数)は0.598kg-CO<sub>2</sub>/kWh<sup>※1</sup>となり、2013年度実績と比較すると、排出量は約7%、排出係数は約3%減少しました。これは、水力を含む再生可能エネルギーの電力量割合が若干増加(11%→14%)したことなどによるものです。

※1: 暫定値であり、正式には「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国が実績値を公表。

### 九州電力のCO<sub>2</sub>排出状況



※2: CO<sub>2</sub>排出クレジット、再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)に伴う調整等。  
(注1) 国が定めた「事業者排出係数の算定方法」により算出。  
(注2) FITの調整によるCO<sub>2</sub>排出量の増加分が、CO<sub>2</sub>排出クレジット取得による削減分を上回ったため、2013年度と同様に調整後排出係数が実排出係数を上回りました。

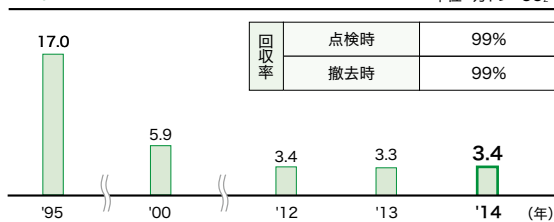
WEB 詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報(P2参照) > 固定価格買取制度(FIT)の調整により九州電力のCO<sub>2</sub>排出量が増加する理由

### CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出実績

#### ■ 六フッ化硫黄(SF<sub>6</sub>)

優れた絶縁性を持つことから、電力機器の一部に使用しています。機器の点検・撤去にあたっては、大気中への排出を極力抑制しています。

#### SF<sub>6</sub>排出量



※: SF<sub>6</sub>ガス重量をSF<sub>6</sub>の温暖化係数(23,900)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

>> 地球温暖化対策の推進に関する法律  
>> 固定価格買取制度(FIT)  
>> SF<sub>6</sub>(六フッ化硫黄)  
>> N<sub>2</sub>O(一酸化二窒素)  
>> 熱効率  
>> 利用率

>> 温暖化係数  
>> HFC(ハイドロフルオロカーボン)  
>> オゾン層  
>> フロン  
>> 規制対象フロン  
>> フロン排出抑制法  
>> CH<sub>4</sub>(メタン)

>> PFC(パーフルオロカーボン)  
>> ステークホルダー  
>> 低炭素社会  
>> エネルギーセキュリティ  
>> ライフサイクル  
>> 再生可能エネルギー  
>> LNG(液化天然ガス)

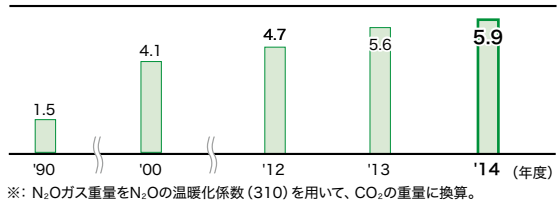
>> 使用済燃料  
>> プルサーマル  
>> 低レベル放射性廃棄物  
>> BWR(沸騰型)  
>> PWR(加圧型)  
>> 地球温暖化  
>> 指定電気事業者

用語集をご覧ください

#### ■ 一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)

主に火力発電所での燃料の燃焼に伴い発生するため、発電所の利用率により発生量が変動しますが、火力総合熱効率の向上等に取り組むことにより、排出抑制に努めています。

#### N<sub>2</sub>O排出量



※: N<sub>2</sub>Oガス重量をN<sub>2</sub>Oの温暖化係数(310)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

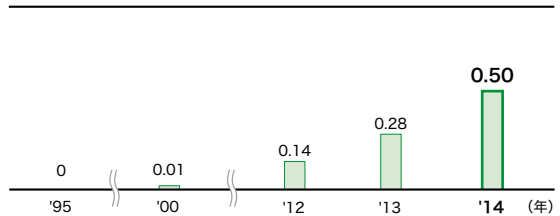
#### ■ ハイドロフルオロカーボン(HFC)

空調機器の冷媒等として使用していますが、機器の設置・修理時の漏洩防止、回収・再利用を徹底しています。しかしながら、2014年度は大型空調機器の故障に伴う漏洩により、2013年度に比べて排出量が増加しました。

なお、フロン類(規制対象フロン含む)を使用している業務用冷媒機器等については、2015年4月に施行されたフロン排出抑制法に基づき、対象機器の点検を徹底し、機器新設時や取替時には、規制対象フロン不使用機器の導入を進めます。

WEB 詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報(P2参照) > オゾン層の保護

#### HFC排出量



※: HFCガス重量をHFCの温暖化係数(140~11,700)を用いて、CO<sub>2</sub>の重量に換算。

#### ■ その他の温室効果ガス

火力発電所での燃料の未燃焼分としてメタン(CH<sub>4</sub>)が排出されますが、排ガス中の濃度が大気中の濃度以下であることから、実質的な排出はありません。また、一部の変圧器では、冷媒及び絶縁体としてパーフルオロカーボン(PFC)が使用されている例がありますが、当社での使用はありません。